

# 小樽旅行

## 制作陣情報



監督

イム・デヒョン

### 作品経歴

- 「メリークリスマス・ミスター・モー (Merry Christmas Mr. Mo)」
- 第21回 釜山国際映画祭 ニューカレンツ部門招請 (ネットバック賞受賞)
  - 第41回 ソウル独立映画祭 公式競争部門招請 (熱血スタッフ賞受賞)
  - 第52回 カルロピバリこくさいえいがさい
  - 第22回 ビルニウス国際映画祭
  - 第19回 プエノスアイレス国際独立映画祭

監督 イム・デヒョン プロデューサー バク・ドゥヒ 制作会社 FILM RUN シナリオ オリジナル 作品区分 実写劇映画 ジャンル ドラマ キャスティング(確定内訳) 未定 制作形式 デジタル 撮影予定日 2018年2月 直接制作費(KRW) 1,000,000,000 確保済み制作費(KRW) 200,000,000(2017 KOFIC 低予算 映画 支持) 共同制作 希望形態 共同製作、セールス、先行販売、キャスト、資金調達、配給 シナリオ 2稿段階 プロジェクト 推進経過 キャスティング進行中

## 制作会社

会社名 Film Run  
 作品経歴 「メリークリスマス・ミスター・モー (Merry Christmas Mr. Mo)」 / 2016 / 製作  
 36編の短編映画の国内配給及び海外販売  
 住所 Kyeongho Building 508, Dasanro 47, Jung-gu, Seoul, Korea  
 連絡先 Tel: +82-70-8152-1213 / Email: pdh@filmrun.co.kr

## シナプシス

ある日、センター試験を終えたばかりの高校3年生のセボム(19)は、郵便受けから怪しい手紙を発見する。その手紙は日本の小樽から母親宛に届いた、切々としたラブレター。そのラブレターの送り主は「Hana Katase」という女性であった。母親の初恋の相手が女性だったとは！セボムは自分が手紙を読んだことを隠したまま、再び手紙を郵便受けに入れる。自分の母親は一体どんな人なのだろうか。3年前、母親と離婚した父親と唯一の伯父も、母親のことをあまりよく分かっていないようだ。いつも疲れきって自分とは会

話もないまま無気力に生きている母親をもどかしく思っていたセボムは、母親と一緒に旅行に行くことを提案する。母親と一緒に小樽に行き、母の初恋の人に会ってみよう。そしてそこで本当の母と会ってくる。セボムの母ユニ(41)は、日々を意味もなく繰り返し生きている、巨大な工場の食堂の労働者。ユニの日常は小樽から送られてきた手紙を受け取った後、崩れてしまう。弱り目にたたり目で、ユニは突然旅行に行こうと言い出した娘のしつこさに参っている。思い悩んだ末、ユニは結局、娘を連れて小樽に行くことを決心する。娘と一緒に小樽に行き、私自身を見せてあげよう。これ以上運命を避けない。

## 制作計画書

### 企画意図

#### 1) 旅行映画

冬に日本の北海道、小樽を旅したことがある。小樽はロマンチックな都市だった。私はその理由が小樽に降る雪のせいだろうと考えた。小樽のすべての道と商店を覆ってしまう雪。そのおかげで、粗悪でさほど美しくない数々の古い建物、さらには道に設置してある自動販売機までがロマンチックに見えたものだ。私は小樽に降る雪を見て、ここでならどんなに爽やかに恋も実るだろうと、童話のような想像をした。この物語はそん

な想像から始まった。

韓国の観光客が家族単位で最もよく行く海外の旅行地は日本だという。韓国と日本の外交の葛藤は日本に向かう数多くの韓国旅行者の足を止めることは難しいようだ。これは無視できない事実である。しかし韓国の多くの映画の中で、日本の空間を背景にした映画は探しにくい。しかも「海外旅行」を映画の中心素材にした映画もあまりなかった。この映画は日本を旅行したことがある、韓国の平凡な旅行者たちが待ちわびていた映画になるだろう。

#### 2) LGBT映画

LGBTは、現在、全世界の話題となっている。それによって隠れてきた性的マイノリティーたちが勇気を出して、自身の存在をカミングアウトしはじめています。しかし韓国の性的マイノリティーは、まだまだ異性愛者中心の社会システムから差別されており、最小限の尊厳すら尊重されていない。おかげで性的マイノリティーが登場する映画はどんどん増えていってはいませんが、いまだに量的にも質的にも不足している。私は性的マイノリティーをキャラクターとして特定化しないために努力すると同時に、依然として家族、友人、社会から自身の存在を認められない性的マイノリティーが、自身の尊厳を証明するために努力する過程を描いた映画を見てみたかった。それでこの物語を書くことになった。この映画では、人間から美しさを奪う、硬直した環境の抑圧に対して、人間本来の生き生きとして柔軟な息づかいを回復する

ために闘う、主人公の行動を描いた。

まさにこの価値回復の過程と、社会的な意味こそが、この映画の存在価値になるだろうと考えている。この映画を通して未来の常識になるべく寄与したかった。

#### 3) 母に対する映画

ふと気がなったことがある。私の母はどんな人だろうか。この物語を書くに先駆けて、私は母と長い間、共に多くの時間を過ごした。そんな中、私が知らなかった母の姿を多く知ることになった。母が長い間隠していた秘密もやはり知ることになったのだ。そのような過程で私はものすごくショックを受け、同時に反省した。韓国の家父長制社会のシステムを内在化して育った私にとって、母はまさに特定化された母、そのものだったのだ。私はこの物語を通して、私が出会った母を見せたかった。母である前に、1人の女性、人格を持った1人の人間を描きたかった。

## プロデューサー

バク・ドゥヒ 「メリークリスマス・ミスター・モー (Merry Christmas Mr. Mo)」 / 2016 / 製作  
 「アイ・キャン・スピーク (I can speak)」 / 2017 / 資金調達進行  
 「ガラスの庭園 (Glass Garden)」 / 2017 / 資金調達進行  
 「突然変異 (Collective Invention)」 / 2015 / 資金調達 / マーケティング進行  
 「巨人 (Set me free)」 / 2014 / 資金調達 / マーケティング進行  
 「サニー永遠の仲間たち (Sunny)」 / 2011 / 製作部  
 「許しはしない (No Mercy)」 / 2009 / 美術チーム

## 作家

### イム・デヒョン 短編 Filmography (演出)

- 1) レモンタイム(Lemon Time) / HD / 30min / 2013 / 脚本、演出  
 - 第18回 インディ・フォーラム 新作展招請 (2013)  
 - 第14回 大邱短編映画祭 本選競争招請 (2013)  
 - 第7回 大田独立映画祭 優秀作品賞受賞 (2013)
- 2) もしかしての世界(The World of IF) / HD / 22min / 2014 / 脚本、演出  
 - 第19回 インディ・フォーラム 新作展招請 (2014)  
 - 第13回ミジャンセン短編映画祭 愛に関する短いフィルム審査員特別賞 (2014)  
 - 第8回 大田独立映画祭 開幕作品招請 (2014)  
 - 第40回 ソウル独立映画祭 優秀作品賞受賞 (2014)

## 参加にあたってのコメント(その他)

<小樽旅行>は、単に映画の背景が日本の小樽であるという理由で日本との合作を思いついたプロジェクトではありません。このプロジェクトは韓国と日本、両国の低予算、作家主義映画の観客層をターゲットにした、作品性と興行的成功を同時に目指す韓日合作プロジェクトです。日本の映画市場が衰え始めてはいえ、巨匠たちの作品を始め、質の良い作家主義映画が作られているのは確かです。しかし、新人監督たちの野心的な芸術映画は見当たりません。これは、低予算芸術映画の観客層が制限的で、拡大されにくい停滞状態にあるため、投資が活発に行われなからだと判断されます。

韓国の映画市場も同じ状況だと思っています。大衆映画でない以上、資金調達が非常に困難なシステムで、多くの映画が徹底した企画商業映画として製作されています。ですが、投資者側の立場も十分に理解できます。損益分岐点を超えることができないプロジェクトへの投資をためらうのは当然のことでしょう。韓国と日本、二つの国の劣悪な作家主義映画の製作状況は、芸術映画を消費する観客層が薄く、国内市場だけでは制作費さえ回収不可能なために起きている実情だといえます。そこで、二つの国の芸術映画の観客層を同時に狙った、低予算作家主義映画が興行的にも成功するプロジェクト<小樽旅行>を作りたいと思っています。